



【2018-02-07】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『子犬によりそう』

長野修二

子犬によりそう

わが家にミニチュアダックスがやってきて4か月になろうとしています。

最初は聞き分けのないあかちゃんて噛みつき放題のわがまま娘でしたが、わが家にやってきた4か月の間で人間の言葉を理解できるようになり、だんだんとあかちゃんから成犬へ成長していく様子に驚く毎日でしょうか。



それでもわが家にやってきたときから甘噛みをする癖は治りません。

はじめはいろいろと調べて甘噛みをやめさせる方法を試していましたが、毎日子犬と接するうちに甘噛みは私たち家族に対する甘えや遊びの合図のように感じてきましたので、私は好きなようにやらせておくことにしました。

妻は、今でも「ダメ」と怒るときもあるようですが、私は好きにさせています。

ときには強く噛むときもありますが、「痛い」と言えば、その後は甘噛みをやめますし、子犬が噛んだところを優しく舐めてくれますから、子犬自身もそのときどきに人間が発する言葉を通じて遊びのバランス感覚を作っているようです。

もっとも、私は「怒る」ことが、人間社会でも苦手なタイプです。会社生活でも基本的に部下などを怒ることが少なかったと思います。

また、家庭生活でも子供たちを怒ったことがほとんどありません。どうも怒りそのものが苦手なようです。

CEOのデータ（米国）では、リーダーシップがあるタイプは結構厳しい人間が多いと、ある書物に書いてありましたが、その意

味では、私は会社人間失格でしょう。

威厳をもち、厳しい姿勢で人を引っ張っていくことは不得手です。役割としては、少しはそのような態度も演じてきましたが、相当なストレスを感じていました。

このような性格ですから、子供たちや子犬に怒ることができません。

むしろ子供たちや子犬によりそって生きているタイプでしょうか。子供たちにも自由に生活させていましたが、もっとも子育ては妻がやってくれていましたが、私同様、比較的に子供たちに自由な生活を与えてくれていたようで、その点では私が考える、あるいは私と同じような感覚で子育てをしてくれたことに感謝しています。子どもたちは社会人になった今でも自由にのびのびと生活してくれています。

子犬に対しても子供たち同様できる限り自由に育てていますが、他人に噛みついたり吠えたりすることもなく、出会う人たちに可愛がってもらっています。

しかし、まだまだ成長過程のようで怖がってしり込みするので、他人やほかの犬になれてくれるのかと心配でした。

ある日、散歩の途中で出会った犬の飼い主さんに、わが家の子犬が現在5か月ですというと、あと2か月くらいするとほかの犬たちとあいさつできるようになりますよと、アドバイスをもらいホットしているところです。

この点を除けば、毎日楽しく散歩をし、家の中ではおもちゃでいっしょに遊ぶことができる元気で活発な犬でしょうか。

甘噛みはまだしていますが、家の中のものをかじることはかなり少なくなり、さらにおしっこやウンチも夜はすることもなく、朝まとめてできるようになるなど成長していることが目に見えてわかります。

掃除や洗濯をしているときもじっと待つことができるし、夜は寝る時間になると自分で寝床にはいって寝るというくらい規則正しい生活ができます。

人間の生活態度をよく観察しながらこちらに合わせて活動してく

れるのも助かります。

先代のミニチュアダックスよりも、よく人間を理解し、自分の生活リズムを作ることがうまいようです。



子犬を子育てみると、毎日子犬によりそっているようですが、実は子犬が私によりそってくれているのがわかります。

家族の生活でも親が子供によりそっていると思っていましたが、実は子供たちが親によりそってくれていたのかもわかりません。案外、以前は子供たちに支えられ、今は子犬に支えてもらっているようです。

とにかく子犬の可愛らしく、そしてゆかいなしぐさに毎日明るい家庭になっていることだけは間違いありません。

そして私自身が子犬のおかげで成長させてもらっているようです。